

「岡山県企業局経営計画 2019～2028」

令和 6 年度 実績評価

岡山県企業局

目 次

●令和 6 年度事業実績及び評価について	1
●経営計画 評価一覧表	2
●行動計画別評価シート	
○電気事業	
安定経営の実現・継続	3
再生可能エネルギーの推進	6
○工業用水道事業	
信頼性の向上	8
安定経営の実現	10
○共通取組事項	
新技術の導入、危機管理対策など	12
○計画の推進	18
●推進委員及び外部委員からの主な意見	19

岡山県企業局経営計画 2019～2028 令和 6 年度事業実績及び評価について

岡山県企業局では、「岡山県企業局経営計画 2019～2028」の行動計画に基づき事業を進めるとともに、毎年度、その実績について評価を行い、事業運営に反映させます。本計画の令和 6 年度（2024 年度）の事業実績概要及び評価結果は次のとおりです。

1 事業実績概要

(1) 電気事業

電気事業は、旭川第一、旭川第二、新見、加茂、黒木えん堤、越畑、久賀、倉見、滝ノ谷、梶並、阿波、寄水、津川、大町、千屋、真加子、苫田、三室の水力発電所（最大出力 61,430kW）と岡山空港太陽光発電所（最大出力 3,500kW）の計 19 発電所で発電を行っています。

令和 6 年度は、供給電力量が 226,416,414kWh で、経営成績については、電気料金収入が 33 億 9,600 余万円、それに諸収益を加えた総収益が 36 億 5,500 余万円となりました。一方、営業費用は 24 億 3,400 余万円、それに諸費用を加えた総費用が 24 億 7,100 余万円となりました。その結果、当年度純利益は 11 億 8,400 余万円となりました。

(2) 工業用水道事業

工業用水道事業は、水島工業用水道（給水能力 708,000m³/日）、笠岡工業用水道（給水能力 49,700m³/日）及び勝央工業用水道（給水能力 4,200m³/日）で給水を行っています。

令和 6 年度の給水状況は、基本使用水量が 557,400m³/日で、経営成績については、給水料金収入が 33 億 6,500 余万円、それに諸収益を加えた総収益が 36 億 6,200 余万円となりました。一方、営業費用は 30 億 6,600 余万円、それに諸費用を加えた総費用が 31 億 1,600 余万円となりました。その結果、当年度純利益は 5 億 4,500 余万円となりました。

事業区分	基本的な経営方針	行動計画と具体的な取組	年度評価 R 6
電気事業	◎安定経営の実現	ア 電力システム改革への的確な対応	B
	◎安定供給の継続	イ 安定供給、経済性を踏まえた施設整備の推進	B
		ウ 施設の保安を確保しつつ効率的な保守管理を推進	B
	◎再生可能エネルギーの推進	エ 地域資源を生かした新規の小水力発電所の開発を検討	B
		オ 発電電力量増加の検討及び実施	B
工業用水 道事業	◎信頼性の向上	ア 計画的かつ効率的な整備の推進と事故時における迅速な復旧	B
		イ 施設の保安を確保しつつ効率的な保守管理を推進	B
	◎安定経営の実現	ウ 受水企業との情報共有による円滑な事業運営	B
		エ 事業環境の変化に適切に対応し、安定経営を実現	B
共通取組事項	◎新技術の導入、危機管理対策など	ア 新技術導入の可能性検討	B
		イ 危機管理対策	B
		ウ 人材育成	B
		エ 効率的な経営	B
		オ 施設開放等	A
		カ 環境保全対策	B
両事業	◎安定経営の実現	計画の推進	B

※評価内容は以下の３段階

A 計画を上回る B 計画どおり C 計画を下回る

基本的な経営方針	電気事業 安定経営の実現
行動計画	ア 電力システム改革への的確な対応 (P28)
具体的な取り組み	安定経営に必要な収入の確保 容量市場等への対応

▶ **安定経営に必要な収入の確保**

- 次期売電入札（R7年度実施）に向け、小売電気事業者へのアンケートや他県の契約状況等の把握など、情報収集・分析を行った。
- また、弁護士や公正取引委員会への照会などを行い、売買電一括による入札や、三室発電所（460kW）分割入札の実施などの方針を決定した。

▶ **容量市場等への対応**

- 容量市場のR10年度需給分への応札実施（契約額：184,661千円）
- 初の実需給期間となったが、容量停止計画の入力やアセスメント結果の確認など、適切な手続きを行った。

< R6年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	電気事業 安定供給の継続
行動計画	イ 安定供給、経済性を踏まえた施設整備の推進 (P29)
具体的な取り組み	計画的、効率的な整備の推進

▶ **電力の安定供給を継続するため、基幹発電所を中心とした施設改修を計画的に進める**

● **主要工事 6 件**

電気の安定供給のため、計画的に工事を行った。

建設工事費上昇への対応のため工事内容の見直しを要し、発注時期が遅れた工事もあったが、概ね計画どおりの案件を発注できた。

●施設整備計画について、建設資材の納期長期化、価格上昇等の影響を考慮した見直しを行った。

< **R 6 年度評価** > B 計画どおり

< **全体から見た進捗状況** > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	電気事業 安定供給の継続
行動計画	ウ 施設の保安を確保しつつ効率的な保守管理を推進 (P29)
具体的な取り組み	保守管理方法の効率化

▶ **現状の保守管理方法の検証**

- 巡視・定期点検等を実施する際は、作業内容について改善箇所がないかを意識し
管理方法の検討を行い、点検記録の見直しを行った。

▶ **情報収集**

- 他県での先進事例の視察など情報収集を行った。

< R 6 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	電気事業 再生可能エネルギーの推進
行動計画	エ 地域資源を生かした新規の小水力発電所の開発を検討 (P30)
具体的な取り組み	小水力発電所の開発可能性調査

▶ **小水力発電所の開発可能性調査**

- 地形図等を参考に新規地点 3 箇所を選定し、概算工事費、維持管理費を算出し経済性の検討を行った。

< R 6 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	電気事業 再生可能エネルギーの推進
行動計画	オ 発電電力量増加の検討及び実施 (P30)
具体的な取り組み	既設発電所リニューアルによる発電電力量増加の検討

▶ **既設発電所リニューアルによる発電電力量増加の検討**

- 大町発電所FITリニューアル工事のFIT申請、R 8 年度の現地工事に向けた協議等を実施
- 津川発電所及び真加子発電所のFITリニューアルについては、発電電力量の増加は見込まれたが、建設工事費上昇による経済性の悪化により、実施を見送った。
- 久賀発電所FITリニューアルに向けて検討を行っている。
- 苫田発電所におけるハイブリッドダム of の取組み（推定増電力量：236.2MWh／年）

< R 6 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	工業用水道事業 信頼性の向上
行動計画	ア 計画的かつ効率的な整備の推進と事故時における迅速な復旧 (P31～32)
具体的な取り組み	計画的、効率的な整備の推進 事故時における迅速な復旧に向けた必要資材等の備蓄

▶ **工業用水道施設の耐震対策**

- 既存管路の耐震対策 : 工事 3 件、委託 1 件
- 施設の耐震対策 : 工事 1 件、委託 1 件
⇒概ね予定どおりの進捗となっている。

▶ **工業用水道施設の老朽化・浸水・停電対策**

- 施設の老朽化対策 : 工事 2 件
- 施設の停電・浸水対策 : 工事 2 件
⇒概ね予定どおりの進捗となっている。

▶ **備蓄資材の種類・数量の精査と追加確保、その後の適正管理**

- これまでに作成した備蓄資材リストを元に、不要資材の処分方法や費用の精査を実施

< R 6 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	工業用水道事業 信頼性の向上
行動計画	イ 施設の保安を確保しつつ効率的な保守管理を推進 (P33)
具体的な取り組み	保守管理方法の効率化

▶ **現状の保守管理方法の検証、保安を確保しつつ効率化する方法の検討**

- 笠岡共用導水路の内部点検方法に関して、国交省のインフラメンテナンス国民会議の実証試験へのフィールド提供や、点検調査計画検討業務委託による新技術導入の検討を実施し、フロート式撮影装置等の新技術の活用によって、概ね実効性のある点検が可能となることが確認できた。

▶ **デジタル技術活用に関する情報収集**

- 新技術導入に関する先進事例について、日本工業用水協会の研究大会、中四国事業者ブロック会議、他の自治体への問い合わせ、新聞記事等により情報収集を行った。

< R 6 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	工業用水道事業 安定経営の実現
行動計画	ウ 受水企業との情報共有による円滑な事業運営 (P34)
具体的な取り組み	定期的なニーズ調査の実施 受水企業で構成される団体を通じた情報共有の推進

▶ **定期的なニーズ調査の実施**

- R 7 年度基本使用量調査を実施し、次年度の各受水企業の需要量増減等を把握

▶ **受水企業で構成される団体を通じた情報共有の推進**

● 岡山県工業用水協議会

- ・ 令和 6 年度 第 1 回理事会 ・ 第 5 2 回通常総会（7 月）対面開催
- ・ 令和 6 年度 第 2 回理事会（2 月）WEB 開催
- ・ 先進事例調査（大阪市）

⇒ 受水企業との顔が見える関係づくりが図られた。

< R 6 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	工業用水道事業 安定経営の実現
行動計画	エ 事業環境の変化に適切に対応し、安定経営を実現 (P34～35)
具体的な取り組み	新規給水への迅速、適切な対応 物価高騰対策への対応 将来の水需要を踏まえた適切な施設規模の検討

▶ **新規給水への迅速、適切な対応**

- 新規給水の給水開始 1 社・給水承認 1 社

▶ **物価高騰への対応**

- 令和 5 年度決算値を反映した収支見通しのローリングを行い、今後の収支動向を把握

< R 6 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	ア 新技術の可能性検討 (P36)
具体的な取り組み	先進事業体の調査や研究機関と連携した調査・研究の実施

▶ **先進事業体の調査や研究機関と連携した調査・研究の実施**

- 民間企業から、ダム・水力発電所の維持管理・保安業務へのドローン活用について情報収集した。
- 本県デジタル推進課が利活用を呼び掛けている生成AI「minnect AI」の利用
- RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)活用
令和2年から給与支出事務に活用しており、更なる活用について検討を続けている。
- その他DXに関する研修会、セミナーに参加

< **R6年度評価** > B 計画どおり

< **全体から見た進捗状況** > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	イ 危機管理対策 (P38～40)
具体的な取り組み	塩害対策 / 渇水対応 / 震災、水害及び塩害対策訓練の実施

▶ **塩害対策の実施（工業用水道事業）**

- 塩害発生に備え、潮止堰へのパネル設置や2ルート配水体制の対応
 パネル設置 5回
 2ルート配水体制 1回（8/29～9/2 台風10号対応）※準備まで

▶ **渇水への対応（工業用水道事業）**

- 渇水の発生はなかったが、渇水に備え、工業用水の取水量確保及びダム貯水量確保を考慮して、ダム管理者等と調整を行い、適正な水運用に努めた。

▶ **震災、水害及び塩害対策訓練の実施**

- 2ルート配水訓練（工水）、災害対策訓練[風水害等]（発電）、震災対策訓練（局全体・工水）
 ⇒ 災害発生時の必要な行動が確実に実施できるよう、引き続き訓練内容の改善に取り組む

＜R6年度評価＞ B 計画どおり

＜全体から見た進捗状況＞ 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	ウ 人材確保・人材育成 (P40～41)
具体的な取り組み	人材確保の取組/技術力の継承、維持・向上/計画的な研修の実施

▶**人材確保の取組**

- インターンシップ、Web仕事説明・座談会、技術職説明会・座談会や、高校生向け施設見学バスツアー、県内工業高校への試験説明等を実施

▶**経験豊富な職員からの技術の継承（OJT）**

- 新規職員に雇い入れ時の安全衛生教育を実施
- 定期点検時にKY活動を実施
- 機器の現場手動操作方法、測定器具や工具の使い方、故障発生した際の原因究明の方法（アプローチの仕方）、機器の分解・組立・点検調整の方法などを実地指導
- 作業時の注意点、設備の解説、工具・測定機器の説明をまとめた手引きを作成・研修

▶**技術の継承を行うための職場研修会**

【発電】出水時の対応、貯水池運用研修、河川法令遵守研修、気象に関する研修等

【工水】硫酸/苛性ソーダ取扱研修、A重油取扱研修、空気弁取扱研修、鋳鉄管研修等

▶**段階的・継続的な研修を外部機関が実施する技術研修会を活用し計画的に実施**

- 実地もしくはWEBにより、計画どおり講習会等に参加した。

引き続き、外部機関が実施する技術研修会を活用し、職員の能力向上を図る。

< R6年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	エ 効率的な経営 (P42～43)
具体的な取り組み	民間能力の活用等の検討/一般管理費の節約/資産運用収益の確保

▶ **民間能力の活用等の検討**

- PPP/PFI研修やアクションプラン解説セミナー等に参加し、D X 含む事例の情報収集を行った。

▶ **一般管理費の節約**

- 予算執行方針について通知を発出し、合理化や、コスト意識の醸成に繋げている。
- 撤去品、工事残材料のうち再使用可能なものを貯蔵品として管理するよう担当者の会議で依頼

▶ **資産運用収益の確保**

- 年度当初及び8月上旬に余剰資金の運用を実施し運用収益を確保できた。

< R 6 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	オ 施設開放等 (P44)
具体的な取り組み	施設開放による学習の場の提供 / イベントへの参画

▶施設開放による学習の場の提供

●新規の取り組みも加える形で実施した。

⇒ 工業用水道施設「社会見学会」の開催（小学生161名参加）

発電施設「水力発電施設見学会」の開催（小学生 25名参加）

発電施設「新見発電所夏休み小学生親子見学会」の開催（11組22名参加）

旭川ダム・旭川発電所見学会【旭川ダム70周年事業】

▶イベントへの参画

●「おもしろ体験でえ〜」に参加し、発電の仕組や方法の講義、手回し発電機を使った体験学習を実施

●「JFEフェスタ」に参加し、パンフレット配布や手回し発電機等のアトラクションを通じて電気・工水事業のPRを行った。

● 第74回全国植樹祭（5/26）において客土として採用された浄水ケーキのPR

< R6 年度評価 > A 計画を上回る

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	力 環境保全対策 (P45)
具体的な取り組み	脱炭素に向けた取組/既設発電設備のオイルレス化/浄水ケーキの販売

▶**脱炭素に向けた取組**

- 省エネ推進委員会開催（7/11）定期報告・中長期計画書の報告を実施（7/31）
- 水源涵養林の伐採後の植林等について、土地所有者の真庭市と調整

▶**既設発電設備のオイルレス化**

- リニューアル工事中の大町発電所において、入口弁を電動化する予定

▶**浄水ケーキの販売**

- 生成1,197t、販売1,203t、産業廃棄物処分 0t（3月末時点）
⇒ 浄水ケーキの全量販売を達成
引き続き産業廃棄物の削減のため全量販売を目指す

< R 6 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 安定経営の実現
行動計画	計画の推進 (P46)
具体的な取り組み	PDCAサイクルによる計画の推進 / 経営の状況及び今後の収支見通し

▶ **PDCAサイクルによる計画の推進**

- 経営計画推進委員会開催（6月、11月）
- 外部委員からいただいたご意見を推進委員会に共有し、各取組の進捗状況の確認に反映

▶ **経営状況及び今後の収支見通し**

- 経営状況説明会開催（9月）

< **R6年度評価** > B 計画どおり

< **全体から見た進捗状況** > 概ね計画どおり

(1) 電気事業

- ・既設発電所リニューアルについて、最終的に採算性は低くても再エネを供給するという観点で実施を検討してはどうか。

(2) 工業用水道事業

- ・管路等の震災対策、老朽化対策について、調査しながら継続して進めてもらいたい。

(3) 共通取組事項

- ・今後インフラのメンテナンスを担う人材が減少することが課題であり、人材確保の取組も重要である。
- ・PRや施設開放について、もっと情報発信してもらいたい。
- ・浄水ケーキの安定販売に努め、産業廃棄物処分Oを継続してもらいたい。
- ・生成AIについて、業務効率化できるよう利用を広めてはどうか。